



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2019年1月1日

1月号・第204号

奈良・人と自然の会

〒630-8001

奈良市法華寺町 888-7

会長 鈴木 末一



(初冬のならやまベースキャンプ・芋煮会)



Contents

☀️ Happy New Year !!! 🎉

ホームページでは、**カラー**で見ることが出来ます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩（新年ご挨拶）	1	12月歴文研修会・報告	10
Monthly Repo. ならやま	2	新そば祭り・報告	11
私のふるさと	3	忘年会・報告	12
里山の今、鳥シリーズ	4・5	芋煮会・報告	13
豆知識	6	ならやまプロジェクト	14
字遊字感	7	2月月例研修会・案内	15
11月月例研修会・報告	8	行事案内	16
11月自然観察会・報告	9	幹事会報告・編集後記	17

壮春力歩

会長 鈴木 末一

あけましておめでとうございます

皆さま方におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

今年は改元の年。決意が改まる気がします。会創設 18 年目を迎え、会員数も年々増加してまいりました。昨年も関係機関等の各種会合で、ボランティア活動に勤しんでおられる多くの方々と出会い、語らいの場を経験することができました。地域社会の一員として多面的な活動を積み重ねておられる様子を垣間見ると共に、いずれのプロジェクトにも、「持続可能な発展のための環境保護および改善」という視点と、「次世代へのアクション」といった課題が大きなポイントとなっているように感じました。

本会も次なるステージに想いを馳せていかなければなりません。「歴史的風土と自然環境に恵まれた里山を次世代へ引き継ぐ」、即ち、今日までの里山整備活動の「復旧と保護」から「現代に必要とされる里山創生」へと展開していくことが、喫緊の課題ではないでしょうか。そこで、言い古された言葉ではありますが、「初心忘るべからず」でしょう。牧野富太郎博士が「人間はもともと自然の一員なのですから、自然に溶け込んでこそ、はじめて生きている喜びを感じることができるのだと思います」と言われています。この簡潔にして深遠な言葉に思いを馳せております。

老若男女を問わず、世代間を越えて、全ての人々が、自然に親しみ、自然の中に飛び込んでいくことによる体験を通して、目に映じ(視覚)、耳に聞こえ(聴覚)、肌に感ずる(触覚)など、自分の持っているセンサー(五感)を最大限に研ぎ澄ませて観察し、それによって得られた体験から多くのものを学び取ってもらえるようなエリアが、ならやま里山林となればと願っています。さらには、全ての世代間で共有体験可能なステージとして利活用できればと思います。対象となる人たちが、どのような構成メンバーであるかによって、多種多様な

体験パターンが考えられるのではないのでしょうか。企画段階において、対象となる人たちの自然体験に関わる実態の把握とともに、どのようなニーズがあるのかについても、十分な理解をし、両者のバランスも考慮しながら、今日まで培ってきたものに拘らない、柔軟な新しい発想を反映させた取り組みが、キーポイントとなるかと思います。

ところで、会の活動拠点となっています「ならやま里山林」について再確認してみたいと思います。2007 年 3 月に幹事代表の 5 名の方が、現地視察をされたとき、目の前に広がる情景は、想像を絶する荒涼殺伐としたものでした。幹事会での再度にわたる慎重審議の上、「ならやま里山林プロジェクト」として取り組むことが決議されました。5 月 3 日、9 名の方々によって活動がスタートしたのです。開拓者スピリットを存分に発揮し、生駒棚田や忍辱山間伐体験などの活動と並行して月 2 回の活動、インフラ整備やマップづくりなどから始め、10 月から本格的に里山林の進上路(観察路)整備に取り掛かれたのです。今日とは比較にならない少人数での活動でした。先達の皆さんの汗と土に塗れたご苦労が、ならやまプロジェクトの礎であることを忘れてはなりません。勿論、活動面積も拡大していますし、内容も多種多様になってきてはいます。それぞれに個性とニーズがあり、多様化した個性の数だけの夢実現を目指すハードルは大変厳しいものであります。だからといって手をこまぬいていても進歩は望めません。志豊かで良識ある個性と人間力が根底に備わった集団でなければなりません。

金子みすゞの詩に「鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい」(「私と小鳥と鈴と」という一節があります。私たちは時々、一方を追求することに熱心なあまり、他方がおろそかになり、結果的に偏った物の見方をしてしまうことがあります。金子みすゞの詩の観点を、しっかりと味わってゆかなければと自分に問いかけている日々であります。

主役は会員の皆さま方お一人お一人です。

本年もよろしく願ひいたします

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

11月23日(金) 振替活動 晴れ 50名

日中は暖かく、活動に最適な日和だ。打ち合わせではマツタケ研修会の報告、忘年会や新そば祭りの予告などが行われる。里山 G はマツタケ林の下草刈りやテントの土台作り、エコ G は野菜の収穫や畑への施肥、そして景観 G は佐保自然の森の草刈りと機械整備に取り組む。またビオ班は池の



整備、花班は花壇周辺の草取り、パト G は2コースのパトロールと階段の補修を行う。

11月29日(木) 活動 晴れ 84名+1名

新そば祭りも9回目。ソバの他、てんぷらやネギ焼きがテーブルに並び、宴を楽しむ。ソバの収



量あてクイズの発表および表彰が行われる。今年は33キロ余りだったとか。またテントの土台工事や台風被

害木の処理等も順調に進む。里山 G はほだ木材の伐倒、エコ G は野菜の収穫やサトイモの種芋の保全、そして景観 G は第3駐車場横の竹林の整理を行う。またビオ班は池の補修、花班はポピーの移植、パト G は観察路の倒木の処理や3コースのパトロールを行う。

12月6日(木) 活動 曇り時々雨 63名+1名

サイトは大忙し。協働活動では部分皆伐地区の下草刈りや記念植樹用の竹切り、そして来週の芋煮会の準備にと忙殺される。午後は雨のため本日の活動は途中で終了。見学者1名。全員の協働活

動の他、里山 G はほだ木の伐採、エコ G は秋野菜の収穫とサトイモの収穫に取り組む。またビオ班は水生生物



調査や池の整備、花班は花畑の整備の他、ポピーの移植、そしてパト G は4コースのパトロールを行う。

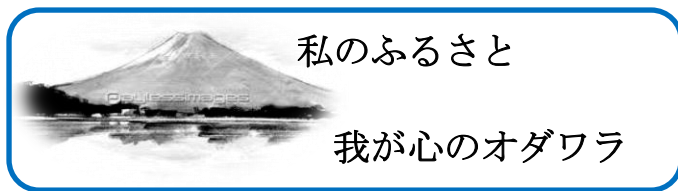
12月13日(木) 活動 晴れ 83名+9名

慌ただしい。門松や干支の置物の準備は今年も欠かせない。また芋煮会。コイモの食べ比べやコイモの入った豚汁等とイモ尽くしの昼食になる。近大から6名、ミツバチの飼育に取り組んでいるビーフォレストの2名を含め一般見学者3名が来訪。里山 G はほだ木の伐採と干支の置物づくりの準備、エコ G は野菜の収穫と芋煮会準備、そして景観 G は佐保自然の森の植樹を行う。またビオ班はタナゴ池の水抜きと水生生物調査を近大生と協力して行う。花班は大根の樽漬けと花しょうぶ園の整備、パト G は1コースのパトロールと観察路の補修と植樹を行う。



12月20日(木) 活動 曇り 78名

本年の最終活動日。無事に一年が終了。朝礼は会長の一年の活動の感謝とお礼の言葉から始まる。大掃除の他、器具・機械類の点検整備に加え、門松や干支の置物づくりが着々と進む。また、1月10日に予定されている記念植樹の準備や初出式の打ち合わせなどが行われる。里山 G は門松作り、エコ G はサトイモ保全を、景観 G は佐保自然の森の支柱点検に取り組む。またビオ班は倉庫片付け、花班は山野草園の整備、パト G は2コースのパトロールと階段の整備、果樹班はミカンの収穫を行う。



私のふるさと

我が心のオダワラ

戸田 博子

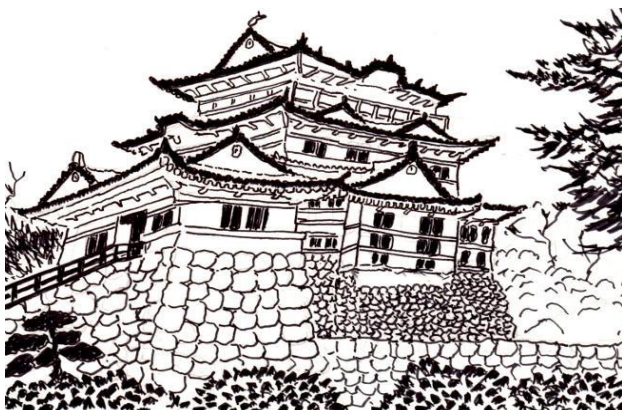
「ふるさと」という響きは、生まれたところ、実家があったところなどを連想するが、私にはそういう場所はないように思う。

生まれたのは大阪だったが、父の転勤で2カ月で札幌琴似へ移った。5才まで過ごしたが記憶はあまりない。雪が大好きだった。橇（そり）に寝転んで坂を滑るのがすごく楽しかったのを鮮明に憶えている。

幼稚園に入る頃大阪に父が転勤したので、布施（今の東大阪市）に7年住んだ。今考えると、自然の森もなく虫もあまりいなかった。すぐそばを毎日色が変わる長瀬川が流れていたが、子どもにとっては汚いと感じなかったようだ。

ただ、市立だが変った小学校に通った。「通知簿」なしだったので、成績を気にしなくてよかった。給食がないので、お昼はお弁当を好きな場所で時間をかけて食べられた。ぐずの私にはとても楽しい学校だった。

中学校に行くとき、また父の転勤で神奈川県の小田原市へ。この小田原が、私にとり「ふるさと」だと思っている。越したときは4月だったので、一面レンゲ畑が広がり、梨の白い花が満開に咲いていた。雪を頂いた富士山が、箱根連山の後ろに堂々と立ち上がっているその時の景色は忘れられない。私の山好きは、この時に始まったのかもしれない。



自然のすばらしさはよかったのだが、学校生活は失敗の連続だった。まず昼食は、全員そろってから「いただきます」。黙々と食べる。全員が食べ終わるまで、皆で着席したまま待つ。ぐずの私には苦行となった。また、成績表というものをもらったことがなかったので、得意だと思っていた美術や体育が「3」と付いた。提出作品を出さない。勝手に行動する癖がついているのでは、その評価は当然だった。今の時代なら問題児だが、先生や友達に助けられて1年後には学校大好きになった。

小田原は、北条氏が治めた城下町だ。お城やお堀があり、5月には大行列のお城祭りがある。

海のそばなので新鮮な魚をつかった蒲鉾や、アジのたたきは皆さんもご存知だと思う。

市の中心部から少し離れるが、曾我というところがあり、曾我兄弟のあだ討ち話が伝わっている。近年は曾我梅林が有名で、梅干しの産地でもある。

伝統産業としては、木工品、特に寄木細工の工房があり、小物から高級絵画までいろいろと見ることができる。



中学・高校・大学・就職・結婚・子育てと人生の転期を小田原で経験した。私の生き方に大きな影響を与えたところだった。

朝日新聞の「折々のことば」に

生まれ故郷は、わたしたちがある時点で、成長したり形成されたりしたあらゆる場所に、少しずつ存在する。（ヨゼフ・チャペック）

これを読んでそうなんだと確信した。

奈良に住んで37年近くなる。この年月は、私の人生の仕上げの「ふるさと」になるのだろうか？

里山グループ

阿部 和生

◆ 器機はいつも、ぴかぴか！

山は多様な顔を見せます。里山林の場合は、あくまで二次林ですから、手を入れること、人間が関わり合うことが必須です。教本では、そのまま放置し、自然の遷移に委ねるという選択肢も記されていますが、奈良県の里山林では常緑樹の繁茂する九州のような、下草の豊富な山林には戻らないといわれています。生物多様性に富んだ雑木林には、そのままの放置では戻らないということです。

県の里山林整備指導では、ソゴ、アラカシ、ネズミモチ、クロバイ、ヒサカキ、イヌツゲなどは伐採種として記載しています。下層植物ではネザサ、コシダ、フジなども記述されています。「ナラ枯れ」により半分に減ってしまったコナラ林は常緑樹がはびこり、ササが増えやすい環境にあります。特に「ササ」はいったん勢力を持つとその根絶には時間と多大な労力が必要になります。

高木樹を育てつつ、豊かな下草や灌木がある里山林に戻す努力がこれから必要です。

枝葉を始末するチップパー機の活用、刈り払い機の使用、鉋を使える技術、そうした事がこれまでに以上に必要になると思います。

車を運転することは大変な事です。しかし学び、練習する事により安全を確保し、便利さ快適さを手に入れます。山林における各種の器機も、しっかりとした学習と経験の積み重ねにより作業が楽しく、きれいに仕上がり、活動の練度があがります。

鉋や大鎌、厚鎌などは、常に手入れを怠らず、「刃」を鋭くして使用する事が大切です。砥石で刃を立てる事が必要です。ノコギリは、使い捨ての替刃が主流です、やはりそれであっても使用後の手入れが大切です。

様々な器機は、いつも、ぴかぴか、新品同様であれば、作業はスムーズ、個人への負荷が少なく、安全です。作業終了後の後始末が次の快適な活動に繋がります。

**里山の今****エコファームグループ**

青木 芳一

◆ 雑煮について

お正月の食事に欠かせない雑煮ですが、歴史は古く室町時代です。江戸時代に入ると庶民でも餅が手に入るようになり、全国的に雑煮でお正月を祝うようになりました。

餅の形、だし、具の種類にいたるまで、地方や家庭ごとに千差万別といわれています。東京風の雑煮には、すまし汁に鶏肉、小松菜、里芋、シイタケ、焼いた角餅、ユズを用いています。京風の雑煮は、白みそ仕立てで、大根、金時ニンジン、ヤツガシラ、丸餅は焼かずに柔らかくして入れます。私のふるさと横浜の雑煮は、すまし汁に鶏肉、小松菜、焼いた角餅、ユズ、大根、金時ニンジン、ヤツガシラを入れていました。岐阜出身の父のため、母が入れる具を配慮したのでしょうか。

雑煮の中には、縁起を担ぐめでたいものが入っています。餅は地域により、丸餅と角餅になります。丸餅は、この1年「角がたたず円満に過ごせますように」という思いを込めて食べます。角餅は、その昔武士たちが、戦いを前に「敵をのしてしまおう」と、のし餅を切った角餅を食べ始めたといわれています。

雑煮に入る具には、おめでたい野菜があります。(小松) 菜は食べるとき、箸で菜を持ち上げ「名(菜)を上げる」とし、その菜を食べ残して「名(菜)を残す」とし、さらには「菜」と鶏肉の「鶏」から「名取り」となりました。里芋は、親芋から子芋が次々と増えていくことが「子孫繁栄」として入れます。大根の白と金時ニンジンの赤で紅白を表し、輪切りにすることで、円満となります。

野菜が縁起物とされる由縁は、大地のパワーを取り込んで生育しています。生命の源でもある大地には、その地を祭る神様が宿っていると考えられていました。

会員の皆さまの家庭の雑煮の中の餅、だし、具はさまざまでしょう。ならやまの畑で栽培された「めでたい野菜」を、お正月の雑煮に入れて食べたお味はいかがでしたか。

景観グループ

羽尻 嵩

◆タナゴ池の生物調査報告

○12月13日(木)近畿大学農学部の北川忠生先生と学生5名によりタナゴ池の生物調査が行われた。



結果は次のようになった。

- ・ニッポンバラタナゴ 19匹。タガイ 2個体。
シマヒレヨシノボリ約 50匹。

バラタナゴの数が少なかったのは、産卵の場となるタガイがザリガニの攻撃により激減したからだ。



○初め10個ほどだったタガイは、その後20個体ほど追加されたが、9月末には2個体となってしまった。死んだカイのカイガラにはザリガニによる攻撃の痕跡が残っていた。

○ザリガニは5月からの暑さ、特に5~8月の猛暑で大量に増え、大繁殖し、餌を求めてカイを食い荒らしたのだ。

今年はこの反省を踏まえ、ザリガニ捕獲と泥の除去に力を入れるつもりだ。



里山の今



鳥シリーズ

小田 久美子

◆「一夫一妻の神話

妻を娶らば二羽以上」

子孫繁栄の願いは、生物共通の念願です。

洋の東西を問わず、世界のほとんどの国や民族での結婚の形態は、少なくともたてまえ上は、一夫一妻制です。鳥の世界でも一夫多妻や一妻多夫は稀ですが、鳥たちの多くが一夫一妻なのは決して道徳的に優れているという訳ではありません。

もし、あなたが結婚適齢期の未婚のメスだとします。けれどあなたの周りでは、良い場所に縄張りを持ったオスはすでに一羽のメスとペアになっています。独身オスは悪い場所にしか残っていません。「金持ち」の既婚オスの二番目の妻になるか、「貧しいながらも」一夫一妻を貫くか、乙女の思案のしどころです。さて、人間界では、女子を得るには見目の他にも権力と財力が優位とされますが、人間ならここでモラルというややこしいものが入り込みますが、鳥の場合は将来の繁殖成功のみが最重要課題です。そこで、当然「金持ち」の既婚オスを選ぶメスたちが現れます。

一夫多妻で良く知られているのは夏鳥のオオヨ



シキリです。オスはイクメンの面目躍如。妻たちの巣をパトロールし、面倒見ながら他のオスを排除し忙しく鳴かなくては

なりません。日本の鳥の中で最も発達した多妻のチャンピオンはセッカ(12.5cm)です。その小さい体にもかかわらず世界に広く分布し、一羽のオスが平均 5.6(最多 18)個の巣を作り、その半分にメスが入ります。かくして独身オスが多くなってしまいます。

一方あぶれオスの方も、指を加えてばかりではありません。折りあらばその妻を奪おう、あわよくば一夫多妻になろうとしているようです。オスというものは元来、一夫多妻を目指す本能的な願望があるようです。



「カカオ豆知識」

木村 裕

チョコレートは女性や子供さんの好物であり、バレンタインデーの主演ともなっています。器用な方は茶色の板チョコを溶かしてご自慢の作品を作っておられます。

では、その原料は何かわかりますかと質問すると、雑学の大家？からはカカオ（豆）との回答が返ってきます。どんな物かは見たことはないが茶色の粘液状の物を思い浮かべられているようです。その通りですが、じゃその粘液状物は何から作られたのでしょうか？



カカオの原料は熱帯地方で栽培されているカカオという果樹の実から取り出した物で、エクアドルとガーナが主な産地です。

カカオの木は私たちの背丈の1.5～2倍くらいの高さに剪定・整枝されています。幹や太い枝に花が咲き、しばらくすると長さ20～30cmのラグビーボールのような果実が幹や太い枝にぶら下がります。表面は淡緑色（品種によっては赤褐色）で非常に硬く手で押さえたくらいでは壊れません。

ぶ厚い果皮を割ると、中には白色のねっとりとした物に包まれた茶色の種（ビワの種くらい）がいっぱい詰まっています。これがカカオ豆と言われる物で取り出して洗って乾燥させます。白色の粘液状物も甘くて食べられますがとくに利用はされません。



花と幼果

乾燥したカカオ豆をミールでひくと、粘液状のカカオが取れます。これがチョコレートの原料となり、砂糖や香料などをブレンドして固めると仕上がりです。そのまま砂糖と水を加えて加熱するとおいしいココアの出来上がりです。



カカオの栽培地では、日本のミカン栽培園のようにどこまでもカカオの木が並んでいます。熟した果実を収穫するだけで楽なようですが、いろいろな害虫や病気が発生し、農家はそれなりに苦労しています。とくに果実を腐らせる病気は恐れられています。



種の洗浄作業



ならやま里山林

阿部 和生

ならやま一帯の里山整備を始めて今日まで多くの皆さまがそれぞれの持ち味で関わっていただき整備が進んでまいりました。里山林と範囲を狭めてみますと、初期の高木公園方式の管理推進から「ナラ枯れ」発生に伴う駆除・伝播阻止の時期があり、やがて罹患木の処理に手一杯という状態が続いています。平成 29 年ひとまず「ナラ枯れ終息」となりましたが、作年度は台風被害による倒木や損壊木の処理が発生しこれまで以上に多忙な作業活動となって推移しています。

里山は人手が加わり維持されてきましたが、過日の自然災害は大きな被害をもたらしました。この克服には、現状を知り叡智を集めこれからの進め方を工夫し、現在に生かされた里山林に進めていくことが大切であろうと思います。

高橋延清博士は森林管理法の原則を記しています。

- 1.未熟な森よりも、成熟した森の方が望ましい。
- 2.適切な密度の森は、樹木がまばらに生えている森より好ましい。
- 3.種々雑多な樹木がある森は、1 種類の樹木しかない森より好ましい。
- 4.様々な高さの樹木と植物が共存している「複層林」は、高さが同じ木ばかりの「単層林」より好ましい。(複層林は成長する)。

森林に関する全国共通一律の施業方法というもの、ありません。その地その環境に適した山作りを考え試行錯誤しつつも正解を重ねてゆく作業です。先人が積み重ねてきた知恵を知り、山作りの原理原則を踏まえての方策が大切でしょう。

「ナラ枯れ・台風被害」などにより 痛めつけられた受託地里山林は、努力の施業で改善が進んでいます。ギャップの所には、クヌギ、コナラも植栽され現在も進行中です。まだこれからも植栽計画があり、元のコナラ林に全体を引き戻す事が根底にあると思います。

そこで提案です。このならやま里山林を、コナ

ラなどの薪炭・ホダ木の森に限定せず、多種・多様な落葉広葉樹の森に変えていく施業を考えてはどうでしょうか？カシナガ退治で治療を施されたこの里山林を、知恵を出しあってどのように進めるかを考えたいと思います。

遺伝子問題が生じない範囲で「奈良盆地の樹種」を参考に植栽を行ない、多彩な落葉広葉樹を主体とした里山林に変えていく方策です。ならやまは放置すれば照葉樹林化していく遷移の場所ですが、照葉樹の繁茂の時、下草が生えない現象など不都合が生じ常緑樹の広がりには適切ではありません。

生物多様性の点から見ても、水源涵養の視点からでも多彩な落葉広葉樹を植栽し「多種共存の森」に誘導してゆく施業が大切であると思います。コナラ薪炭林にこだわるのでは、やがてまたカシナガの襲来が繰り返される下地になりかねません。「カシナガの大発生という現象を、自然を単純化した人間への大自然からの警告」(山田健)と捉えるならば、この地方にある多様な樹種からなる落葉広葉樹の森に、樹種を増やしていく事が大切でしょう。

1 種類の木で構成されている森よりも 10 種類の木で構成されている森の方が、10 種類の木で構成されている森よりも 100 種類の木で構成されている森の方が強いというのは、理解できると思います。100 種類の中の 하나가駄目になっても大きな問題にはならないだろうし、その 1 種に依存する昆虫の大発生は考えられません。

自然の中の生物は、「食べる・食べられる」という生物同士のつながりです。この食物連鎖は、第一次生産者である植物群を支える土壌や土壌微生物、水環境、光環境などが整っていなければなりません。里山林全体が多様で健康な環境にあることが根本です。

一挙に樹種を増やさなくとも数種交えることでかなり高いレベルでの生態系機能が回復するという研究があります。また有用広葉樹は、将来に経済的価値をも生み出すとも考察されています。

長い時間が必要でしょうが、常緑広葉樹を除き多種共存の落葉広葉樹林に誘導しようではありませんか。

11月(月例研修会)
龍王山の山城跡に登る

羽尻 嵩

11月20日。好天。柳本駅に14名が集合。
9時過ぎ、いざ出発！
目指すは、青垣連山の最高峰の龍王山。



登り口には、弘法大師が大和神社の神宮寺として創建した長岳寺があり、それを過ぎると急な登り道になった。



ささやぶ、木の根っこ、石ころの多い段差のある杉林の道をみんなしっかりと登っていく。

2時間ほど上り、やっと山頂にたどり着いた。山頂にはトイレもあり、少し平らになっていて、広い道もついていて、一息休憩する。

案内板には、戦国時代の武将、十市遠忠（とおちとうただ）がここに山城を築き、一帯を支配していたが、次の代になって、松永久秀、その後、織田信長との戦いに敗れ、山城も廃城になったことなどが記されていた。



案内板から林道を少し登り、さらに1段、2段、3段と段丘を上に行くと急に展望が開けてきた。みんなビックリ！ここが山城の跡だ。

〈山城跡の展望台からの眺望〉



眼下には、大和の広々と田畑や町並みが広がり、大和三山、箸墓古墳などの古墳も点在し、そしてその向こうには、それらを優しく包むように金剛・葛城・生駒の山並みが連なっている。

・あゝ大和にあらましかば いま神無月・

昼食を食べていると、風が出てきて寒くなってきたので、早めに下山した。いい一日だった。

自然教室だより

11 月 秋の奈良公園自然観察会・紅葉狩り

辻本 信一

平成 30 年 11 月 26 日 (月)、紅葉狩りを楽しむべく、奈良公園において今年最後の自然観察会を実施いたしました。午前 10 時、近鉄奈良駅行基像前集合。参加者は 13 名。【本日の参加者一同】



観察ルートは、東向き商店街より奈良基督教会横の坂道を上り、興福寺（中金堂）、国立博物館、浮雲園地、吉城川、春日野園地、七重塔跡、大仏殿鏡池、大仏池と巡るコース。その間の観察ポイントを以下写真と共に説明させていただきます。

① これまで何気なく通過していた奈良基督教会横の坂道は 3 年前 NHK の番組「ブラタモリ」でも紹介された高低差 10 m もある名立たる断層「奈良盆地東縁断層帯」。今回改めてこの地形をみんなで観察いたしました。【地形図で断層帯確認】



② 興福寺境内に入り、いきなり目に飛び込んできたのは真っ赤に色づいたイロハモミジの紅葉。

イロハニホヘトの掛け声とともに名前のいわれとなった 7 つに裂けた葉と特徴となる葉の縁の重なり合うギザギザ重鋸歯を確認しました。【イロハモミジの見事な紅葉】



③ 国立博物館の見える広場では鈴生りに実をつけたサイカチに目を奪われます。ここではサイカチの発芽の手助けをと言うサイカチマルゾウムシの話を披露。また羽状複葉の中でも比較的小葉が偶数からなる偶数羽状複葉の形を観察しました。【鈴生りのサイカチの実】



④ 東大寺参道に入り吉城川沿いのイロハモミジの紅葉がこれまた絶景。どちらも写真を撮るのに夢中となっている観光客で人だかり。



【紅葉の下でハイポーズ】

⑤ 春日野園地東側のあずまやで昼食。その場をお借りし、この時期にしか楽しめないドングリ見本の製作をおこないました。ドングリは全部で 10 種類。どれも平城京で今年採取したドングリです。【ドングリ見本製作】



⑥ 更に七重塔跡近くの川沿いでも見事な紅葉の前で記念撮影。最近の異常気象では自然相手の観察会の日には決めは至難の業ですが、春先に決めた今回の紅葉狩りは奇跡的にドンピシャ。この日を設定して今日ばかりは鼻高々。



【参加者一同大満足】

⑦ 東大寺大仏殿前の鏡池周辺では、イロハモミジに負けじと色づく、信じられない様な百日紅の見事な紅葉にも巡りあえました。



【百日紅の紅葉】

⑧ 観察会終盤には、四葉のクローバー以上に見つけにくいとされるラッパイチョウの葉をみんなで拾い集め、多い人で 4 ~ 5 枚のラッパイチョウを集められました。



【ラッパイチョウ拾い】

紅葉狩りの副題はつきましたが、自然教室の本領発揮、サプライズでドングリ見本を作っていただき、参加された皆さまにも大好評でした。

これからも皆さまに喜んでいただけるよう、常に何らかの工夫をして参りたいとぞんじます。

楽しい企画満載の自然観察会に皆さまも是非ご参加ください。

12月歴文研修会・報告 地元史探訪と座学

田代 一行

12月4日(火)地元史として午前中は「ぶらり、きたまち・奈良街道沿いを巡る」をテーマに、午後からの座学は「正倉院に伝わる秘密の厨子」をテーマに講演会を実施。前日の天気予報では曇り時々雨で心配したが、当日は12月にしては各地で夏日となり、奈良も気温が25度近くまで上がる。途中少し雨が降ったものの、支障のない歴史日和となった。

参加者は26名。近鉄奈良駅・行基前を午前9:00に出発。興福寺一乗院跡(現・奈良地方裁判所)から京街道(別名奈良街道)へ出る。みとりみ池から南都八景に詠まれた、轟橋、雲井坂を通り、東大寺西大門跡、小野小町の歌碑がある威徳井、中門跡(焼門跡)を回って御拝壇へ。四角い石の御拝壇は、聖武天皇が受戒の時、ここで大仏殿を拝礼して境内に入ったという場所である。(平安時代になっても、天皇、上皇が参拝の時に同様にされた)

ここから大仏池の西側の道を通り、転害門へ。この門は10月5日の手向山八幡宮の祭礼の御旅所になっており、唯一創建以来現存する門で、国宝に指定されている。柱には鏃や弾丸の痕が数多く残り、幾たびかの戦禍にも耐え、東大寺創建当初の姿を今に残している。

転害門から京街道をさらに北に進み、奈良奉行所が築いた当時では珍しい石橋を渡り、西大寺の僧・忍性が難病患者のために設けた、北山十八間戸に至る。鎌倉時代、僧・忍性が不治難病の患者救済のため宿舎を設けたのが始まりで、慈善事業の遺跡として著名。そのすぐ北には夕日地蔵が立っている。地蔵様の横には会津八一の歌碑がある。さらに北へ進み、般若寺へ。すでにコスモスも終わり、境内には参拝客もまばらで、国宝の鎌倉建築の楼門から、聖武天皇が大般若経を基部に納めたといわれる、重文の十三重石塔がよく見えた。

向かいには老舗の植村牧場でソフトクリームが有名だが、本日休業で残念。ここから少し戻り、丸い尖塔と赤レンガ造りで明治の面影が残る「奈良少年刑務所」へ。昨年閉鎖され、最後の一般見学会が先日行われ、刑務所の内部が公開された。今後は『監獄ホテル』として改装される予定とか。



その後、若草中学校へ坂道を登り、多聞城跡へ。標高115mの眉間寺山に松

永(弾正)久秀が大和支配の拠点として築いた城で、今は碑のみで何も残っていない。信長が嫉妬したといわれる、近世式の城郭史上画期的な造りの、絢爛豪華な4層の櫓を持ち、信長はこの多聞城をまねて安土城を造ったといわれている。「多聞城と築城主の武将・松永久秀」について説明板がある。

予定に入っていた聖武天皇陵と光明皇后陵は時間の都合でパスし、国立奈良女子大学へ向かう。

旧本館は守衛所の建物と共に明治42年開校以来の姿を残し、国の重要文化財になっている。いまは「奈良女子大学記念館」となっている。この敷地は、かつて奈良奉行所があったところとか。

ここで時間切れ。午前中の「きたまち、巡り」を終了した。それぞれ女子大の学食で昼食や興福寺・中金堂見学など自由とし、中部公民館に午後1時集合として、一時散会した。

午後の講演会には予定を超える39名が参加された。「NPO法人平城京跡サポートネットワーク」の鈴木浩理事長による講演開始。演題は「正倉院に伝わる秘密の厨子」、副題として「正倉院に伝わる天武天皇、遺愛の厨子から歴代の相伝由来が見える」をテーマに午後3時まで講演をしていただく。

厨子の説明と天武天皇以来、歴代天皇によって伝世された由来など正倉院に伝えられる厨子にまつわる、とても興味深い解説があった。

ご参加ありがとうございました。

第9回まほろば新そば祭り 報告

ならやま・そば文化クラブ 寺田 孝

11月29日、第9回目の「新そば祭り」がにぎやかに開催された。秋晴れの下、暖かく絶好の日和に、83人が参加する大盛会となった。

新そばは、えりすぐりの4名が早朝から3キロずつ自宅で打って持参した。一方、会場でも、田辺師範以下3名が実技をご披露する。「とれたてひきたて」の新鮮さが命と、心を込めて打ち上げた新蕎麦170人分が準備された。

会場では「新そば始めました」の看板がムードを盛り上げ、今年も「ならやまの景観形成活動とそば」をテーマに、写真パネルが展示される。その前で往時を語りあう人、ひとりで見入る人、初めてならやまの原風景に出会う人等でにぎわった。

11時30分、そばゆで開始。まきのかまどは火力全開、もうもうと湯けむりをあげる大釜から、ゆであがるそばを冷水で洗い、氷水で絞めて大ざるに盛る。このあたりからは秒単位の勝負である。



12時に祭り開始。シニア自然大学校25周年記念式典に出席された鈴木会長に代わり、八木副会長から開会のあいさつがある。祝いの一句をご披露。

新蕎麦の香りがぐわし宴かな

古川そばクラブ会長から謝辞があり、いよいよ、今年の新そばの賞味がスタート。

配膳場に長蛇の列。手早くそばを盛りつけ、野菜天ぷら、辛味大根、薬味を載せる。すべて「ならやま産」である。立ったまま食べ始める人、席に座っておもむろに箸をとる人。最初は全く声がない。反応に聞き耳をたてるそばクラブのメンバー。あちこちで、「うん、おいしい」「最高」のささやきが聞こえてくる。蕎麦打ちにとって最もうれしい一瞬である。

ぶっかけそばのあとは、暖かい「ニシンそば」「そば雑炊」と続く。変わり種の「そば粉ネギ焼



き」も好評。作り手と食べ手の間にエールが交わされ、ますます盛上って、祭りは最高潮に。

恒例の「新そば収穫重量当てクイズ」の表彰が始まる。晴れの優勝者は平田範光さん、準優勝は坂東久平さんである。上位入賞者10名には、田中克彦さん手作りの来年の干支の置物の賞品がわたされ、また、上位3名には、クラブの「歳末そば打ち会」へのご招待が披露された。

締めくくりのあいさつは阿部さん、「おいしい自然の恵みを満喫した」との賛辞で、「第9回新そば祭り」はめでたくお開きとなった。

「新そば祭り」は今回9年目を迎えた。種まき、刈り取りには共同作業として、皆さんが参加され、祭りに当たっては多くの方々にご協力をいただいた。「ならやまの年間行事」として大いに盛り上げていただき心から感謝したい。

追記

そば祭り収支差額は5,692円。そば粉残量はそばクラブにて買取り4,944円。合計額10,636円は12月7日「ほのぼの基金」へ入金された。

平成 30 年 忘年会報告

辻本 信一

平成 30 年 12 月 10 日 (月)、平成最後の忘年会を、昨年同様、ホテルリガーレ春日野にて開催いたしました。ただし、女性の皆さまが参加しやすいよう、今年は開始時刻を正午に早めました。

その甲斐あり、参加者 44 名のうち女性は 17 名となり、昨年より多くの参加がありました。



【鈴木会長開会挨拶】 【菊川様乾杯ご発声】

定刻 12 時、鈴木会長による開会のあいさつで忘年会の幕が切って落とされました。

ご挨拶の中では、ある会合において会員数 172 名と言う当会の盛況ぶりの理由を問われ、金子みすずの詩「私と小鳥と鈴」より「みんな違って、みんないい」の一節を引用、また会員の皆さまが人生の「リセットボタン」をしっかりと押され、「皆さまそれぞれが主役」となって活躍されていることとの説明がなされたことが紹介されました。

菊川様による乾杯のご発声のあとしばらく歓談と会食をたのしんだ後、青木・桜木・戸田 3 幹事企画による楽しいゲームがはじまりました。



【ゲームに興じる参加者】 【してやっつりの 3 幹事】

ゲーム内容は、抽選で選ばれた二人一組のペアによるからだを使つての「風船割り」。10 名が選ばれ、風船の割れる音に戦々恐々。中には男同士でしっかりと抱き合う姿もあり、会場は爆笑の渦。参加者にはねぎらいの豪華景品もあり、参加者も最後は笑顔でご着席。

会場全体が和んできたところで、歌詞カードが配られ、全員アカペラで童謡「花」を大合唱。会場の雰囲気が一つになりました。そうすると、これまた予想通りではありますが、皆さんの歌心に火が付いてしまいました。予定を早め、カラオケタイムのはじまりです。



【全員で手拍子】 【みんな輪になって】

はじめは遠慮気味にちゅうちょされていた皆さんも、一人歌い出すと次々と名乗りをあげリクエスト曲殺到。裏方は予約打ち込みに大わらわ。

興が乗り出すと即席の「ならやま社中」参上。盆踊りしながらに輪になって踊りだし、さらには巧みなフラダンスに変貌。会場の男性陣もウットリ見とれておりました。最後は定番の「学生時代」「喜びも悲しみも幾年月」の大合唱。

途中では、更谷さん自作の素晴らしい「デコパージュ」作品の提供があり、参加者全員によるジャンケン大会による争奪戦。会場の熱気の鎮まる間がありませんでした。4 度目のジャンケンでめでたく田代さんが作品をゲットされました。



【更谷さんと田代さん】 【古川参与締め挨拶】

最後、古川参与に、平成の時代を振り返り、来年に向かっての抱負を語っていただき、本日の忘年会をしっかりと締めくくっていただきました。

楽しい企画を考えていただいた幹事の皆さま、大いに盛り上げていただいた参加者全員の皆さまにこの場をお借りしてお礼申しあげます。

平成 30 年も残すところ後わずかとなりましたが、皆さまにとりまして来年も良き年でありますよう心よりお祈り申しあげます。

芋煮会 報告

富江 文雄

12月13日(木)にエコファームが主催する芋煮会が開催されました。本格的な冬を迎え、かなり朝は冷え込みましたが、天気はまずまずで、会員約80人、近畿大学農学部から7人、それにビーフォレストからのお二人を加え全部で約90人の大所帯となった。

いつもより少し早めに集合して、男性は前の週に収穫しておいた里芋の洗浄、皮むきを担当。女性は大根、ニンジン、ホウレンソウ等々の収穫洗浄、下準備に分かれて活動開始した。



今年の芋は、大野芋、エビ芋、甚五衛門芋(ただし、ならやまで育ててきて5年以上になるので‘ならやま芋’と呼べる)の3種類。出来としてはまずまずといったところ。

朝の集会前に芋の洗浄や野菜の収穫が終わり、集会後直ちに芋の皮むきにかかった。3種類を別々に分けてそれぞれの味を楽しんでもらうために注意して種類ごとに90~100個の皮をむき、個別に煮ることになる。さらに各自最低でも2個は芋煮に入るように約200個の皮を剥いた。



全ての皮むきに結構時間がかかった。一方女性方は池田さんの指揮の下、ホウレンソウの白和え、風呂吹き大根(甘みそつき)、各種の漬物を準備。更に今年取れた黒米の入った赤飯と、これも新米の白米で炊いた二種類のおにぎりを大量に用意した。



もちろん圧巻は本命の芋煮である。芋のほか大根、ニンジン、ゴボウ、しいたけ、コンニャク、豚肉、薄揚げ等ほぼ全量ならやまで採れた材料を使つての美味、栄養たっぷりの芋煮が完成した。

12時の開始に合わせて各自熱心に作業した結果、ほぼ予定通り12時には芋煮会を始める事ができた。鈴木会長のあいさつもそうそうに食べ物が盛られたテーブルに長い行列ができた。

3種類の里芋はそれぞれおいしく炊き上げられており、遜色なし。各種の野菜が入った芋煮の味は格別。2種類のおにぎりと一緒に全員が少々食べ過ぎを感じたのではないかとと思われる。



ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
活 動 予 定 日

1 月	10 (木) 17 (木) 24 (木) 31 (木)
2 月	7 (木) 14 (木) 21 (木) 28 (木)

- ◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 16 haの里山林地（県有林）
- ◆ 集合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時

◆アクセス

- ① J R平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分
 - ② 近鉄奈良駅：バス 13 番乗り場 115 系統
8：28 発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統
8：36 発 J R奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩 7 分

- ◆ 携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）

- ◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。

- ◆ 連絡先：八木 順一 0774-55-4044



里 山

1/10 初出式&10年継続会員記念植樹式

植樹予定地の整地／薪割り

17 協働活動・アダプトプログラム

東側部分皆伐地下草刈り（協働）

薪割り／植樹予定地の整地

24 31

ほだ木作り

薪割り／植樹予定地の整地

エコファーム

1/10 初出式&10年継続会員記念植樹式

豌豆支柱用竹準備／冬野菜収穫、水田整備

そば：石灰散布

17 協働活動・アダプトプログラム

冬野菜収穫、水田整備

豌豆支柱立て、チップ入れ

そば：チップ入れ 果樹：消毒

24 冬野菜収穫、チップ入れ

豌豆支柱ネット張り

そば：チップ入れ

31

冬野菜収穫、チップ入れ

そば：耕運 果樹：不知火の収穫



景 観

1/10 初出式&10年継続会員記念植樹式

整備：BC 周辺整備／ビオ：池の整備

花：七草採集、七草粥作り／山野草園草取り

17 協働活動・アダプトプログラム

整備：BC 周辺整備／ビオ：池の整備

花：茗荷園整備、山野草園草取り

24

整備：BC 周辺整備／ビオ：池の整備

花：皇帝ダリア園整備／山野草園草取り

31 整備：BC 周辺整備

ビオ：ならやま西池水抜き

花：花生姜剪定、山野草園草取り

パトロール

1/10 初出式&10年継続会員記念植樹式

3 コースパトロール

観察路点検／ミーティング

17 協働活動・アダプトプログラム

4 コースパトロール／観察路整備

24 31 パトロールコース：1・2

観察路整備（落枝処理、丸太階段、手摺）

特別活動 竹林・テント等の作業・竹壁等？



行事案内 Part 1

2月月例研修会のご案内

古の歴史と文化の香る

安堵町と広瀬神社を訪ねて！！

2月例会は、斑鳩の里、上宮遺跡公園から業平の道、太子道を歩き安堵町の歴史文化を散策し、河合町の広瀬神社の砂かけ祭りを見学いたします。

安堵町では、太子道、飽波神社、安堵町歴史民俗資料館、極楽寺など、昼食は、富本憲吉の生家、**【うぶすなの郷 TOMIMOTO】**でのランチを楽しんでください。

午後からは、大和川を渡り広瀬神社の「砂かけ祭り」に行きます。

安堵町は、古代から難波から飛鳥を結ぶ水上交通の要衝であり、戦前には、新法隆寺駅から平端駅間の天理軽便鉄道が行き交っていました。

太子道：斑鳩宮から飛鳥まで聖徳太子が愛馬の黒駒で通った道で、西に20度ほど傾いていたため「筋違道」と呼ばれていました。

飽波神社：素戔鳴尊が祀られ「なもで踊り」の絵馬や祭具、太子腰掛け石などがあります。

安堵町歴史民俗資料館（今村邸）：今村家は東安堵で庄屋役をして、天誅組の伴林光平と親交のあった今村文吾や、奈良県再設置の功労者、今村勤三や大阪帝国大学第5代総長、文化功労者の今村荒尾の生家です。また町指定無形文化財の「灯芯引き」など経験できます。

うぶすなの郷 TOMIMOTO：富本憲吉の生家で、日本近代陶芸の巨匠として1955年人間国宝に認定されました。1961年には文化勲章を受章しています。2年前よりレストラン・ホテルとしてよみがえっています。

広瀬神社：大和川対岸にあり、崇神天皇の時代の古社で水の神様です。風神をまつる龍田大社と共に日本書記に登場します。御田植祭は、「砂かけ祭り」といい例年2月11日に行われ、参詣者も入り混じって砂をかけ合います。

【実施要領】

期 日：2月11日（月）雨天実施

集合場所：JR 法隆寺駅改札口前 9時30分

持ち物：飲み物、雨具、防寒具

参加費：¥3500円（昼食代、入館料）

募集人数：16名 先着順で締め切ります。

昼食場所：うぶすなの郷 TOMIMOTO

レストラン【五風十雨】うぶすな小箱 3240円

今回はうぶすなの郷 TOMIMOTO で昼食をいただきます。事前予約制で定員16名です。

世話人：青木幸子・岡崎節子・富井忠雄

申込先：富井忠雄（携帯 090-7496-8342）

メール：t-tomii@ares.eonet.ne.jp

【行 程】

JR 法隆寺駅—上宮遺跡公園—善照寺—広峰神社—飽波神社—歴史民俗資料館—うぶすなの郷 TOMIMOTO（昼食）—極楽寺—案山子公園—広瀬神社（砂かけ祭り）—JR 法隆寺駅 15時30分頃 行程約8km



レストラン五風十雨



砂かけ祭り

富井 忠雄



行事案内 Part 2

歴史文化クラブ 1 月度研修会

「大神神社初詣と三輪山登拝」ご案内

新春、恒例の大神神社の初詣とご神体「三輪山」の初登拝を行い、「奈良・人と自然の会」の諸行事の安全と「会員の健勝」を祈願致します。

登拝は摂社の「狭井神社」で入山許可の「登山の櫓」を頂き、三輪山(467m)山頂の大物主の依代・奥津磐座まで往復約 4 km、2 時間 30 分程度の行程を「無理をせず、自分のペース」で登拝致します。新春の初登拝は一般募集を行いますので、広くご参加をお待ち致しております。

<実施要項>

- ・平成 31 年 1 月 15 日(火) JR 三輪駅 9:10 分
- ・近鉄西大寺(8:05)～天理(8:27) JR 乗換
- ・JR 奈良(8:35)～天理(8:50)～三輪(9:01)
- ・JR 桜井(9:05) ～ 三輪(9:08)
- ・コース JR 三輪駅・・大神神社・・狭井神社
～三輪山登拝～狭井神社 昼食会「福神堂」
- ・担当世話人 中井 弘・富井忠雄・弓場厚次

* 参加申込: 事務局 中井 弘 まで
メール nakai777@kcn.jp

Fax 0742-43-2656

参加申込 1 月 10 日(木) 〆切



新春初出式

◇◇◇ 餅つきと七草粥 ◇◇◇

場 所: ならやまベースキャンプ

日 時: 1 月 10 日(木)

9 時～ 新年挨拶

10 時～ 餅つき

正午～ 新春初出式など

白米と黒米の 2 色お餅を臼と杵でつきます。
きな粉をまぶしたお餅をご賞味ください。

今年もならやまで採れた春の七草を使った七草粥をご賞味いただきます。お節料理、お屠蘇で疲れ気味の胃を春の七草で癒してください。



2 月ならやま活動&行事予告

* ならやま活動 (木)

2 月 7 日 協働活動日

* 月例研修会

2 月 11 日(祝) 安堵町から廣瀬神社へ
うぶすなの郷(食事)

* イベント

2 月 23 日(土) 椎茸菌打ち 雨→2/24



申し合わせ

以上